

日高新報

土曜日
日刊



抱石から贈られた書額を手に森川住職

珍しい会津藩士の書額

御坊での恩に返礼、貴重な資料

財部の往生寺所蔵

山川浩と御坊中野家の150年前の交流をきっかけに会津と御坊の歴史が再び脚光を浴びる中、御坊市湯川町財部、浄土宗宝永山往生寺(森川正教住職)で、会津藩士で画人の丸山抱石(ほうしつ)の書額が見つかった。御坊日高には会津ゆかりの品が残っているが、書は非常に珍しい。「清逸(せいいつ)」と書かれており、山川と同じく、鳥羽伏見の戦いの敗走中に御坊で助けられたことに感謝を示す貴重な資料といえそうだ。

額があることを言い伝年の鳥羽伏見の戦い
えられてきており、約の敗走途中に往生寺住
40年前に現在の庫裏に職にあてた書であるこ
建て替える前までは「抱石廷者」の署名
飾っていたという。第から会津に使える抱石
24代の森川住職は書額が書いたものであるこ
を見た記憶はなく、会
津と御坊の交流が再び
話題となる中、御坊市
教育委員会から「往生
寺に書額が残っている
と日高郡誌に掲載され
ているが、あります
か」との問い合わせが
きっかけて探したとこ
ろ、倉庫に保管されて
いるのを見つけた。

とを明確に示してい
る。泊まった時に書い
たものか、のちに贈ら
れたものかは分からな
いが、傷ついた多くの
会津藩士を助けた御坊
日高の人々の気質を示
す資料ともいえそう
だ。

礼に贈られた鏡かぶと
や会津ゆかりの皿など
の品はありますが、書
は非常に珍しい。達筆
で保存状態もよく、貴
重な資料」と太鼓判。
「一般家庭にも眠って
いる品があるかもしれ
ませんので会津ゆかり
の品があれば連絡して
ほしい」と呼びかけて
いる。森川住職は「戊辰
150年の節目の年
に、再び日の目を見る
ことができてよかつ
た。大切に保管し、機
会があれば皆さんに見
てもらえるようにした
い」と話している。

抱石(1817〜1898年)は画号で、
本名は鎮之丞。丸山忠
之丞胤永の長男。幼少
のころから書画や詩を
好んだという。家禄5
00石を継ぎ、学校奉
行となり、藩主が京都
守護職在任中は京都常
詰番頭を務めた。戊辰
戦争の緒戦となった鳥
羽伏見の戦いで敗走、
山川らと御坊に落ち延
びたとみられている。
往生寺では代々、会
津藩士から贈られた書
文字から、戊辰(明治元